

感染症に気をつけよう！



平成25年
〔7月号〕

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
風しん	流行	 横ばい	6月以降も流行が継続 しています。以下の解説を参考に して、該当する方は主治医に相談し 予防接種 を受けま しょう。

今、気をつけたい感染症 = 風しん

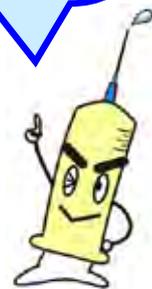
詳しくは横浜市感
染症臨時情報
をご覧ください。

先天性風しん症候群を予防しましょう！

横浜市内で風しんの流行が続いています。昨年の総患者数は113人
でしたが、今年はずでに500人を超えました。

風しんは妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴な
どをもった、[先天性風しん症候群](#)の赤ちゃんが生まれる可能性がありま
す。市内では報告はありませんが、全国では昨年6月からの流行以降
11人が報告されています。（平成22年は報告は無く、23年は1人でした。）

周囲の皆さんがワクチンを接種することが、女性と赤ちゃんを守ることになり
ます。特に、流行の中心である[20～40代男性の予防接種が重要](#)です。麻しん予防にも役
立つ[麻しん・風しん混合\(MR\)ワクチン](#)をお勧めしています。



自己負担 3,000 円で接種できます！

横浜市は緊急対策として予防接種費用を助成しています。

実施期間：9月30日まで

対象者：19歳以上の横浜市民で

「妊娠を予定・希望している女性」「妊娠している女性の夫」

詳しくは、保健所ホームページ「[緊急風しん対策について](#)」をご覧ください。



この資料は、横浜市感染症発生動向調
査委員会報告6月期の市民向け版で
す。ホームページの[感染症発生状況](#)や
[啓発用パンフレット](#)もご利用ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
〔横浜市感染症情報センター〕